

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00904

研究課題名(和文) 出土史料よりみた、中国古代における死生観・冥界観とその思想的・宗教的背景の研究

研究課題名(英文) A study of view of life and death and the underworld and their ideological and religious background in Ancient China by excavated relics

研究代表者

関尾 史郎 (Sekio, Shiro)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：70179331

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：中国古代史、とりわけ3世紀から5世紀にかけての魏晉・五胡十六国時代の西北地方、とくに河西地域を対象として、研究課題の解明に取り組んだ。解明の手がかりは、この地域の各地から出土した喪葬用の遺物・文書である。具体的には磚画・壁画、鎮墓瓶銘、随葬衣物疏、柩銘などで、これらについて、情報やデータを収集してデータベースを構築し、それを利活用した。同じ地域であっても、死後の世界に対する考え方やその表現の方法は多様であること、その思想的・宗教的背景も多様であり、かつそれと同時に体系的性が欠如していることなどを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって構築、公開された各種の喪葬用文物に関する最新のデータベースは今後、歴史研究の分野に限らず、考古学、美術史、宗教史など諸分野の研究の深化に貢献するであろう。また地域研究は、地域社会論と域圏論に大別できるが、本研究は、後者の視点に立ち、喪葬用文物の有無・分布・組合せなどを手がかりとして喪葬文化圏の措置を旨としたものである。このような文化圏は本来的に、公権力が強制的に編成・設定する行政区画とは重複しない、より自生的な空間である。ただ本研究が主たる対象とした河西地域は、自然環境や歴史的経緯などから、文化圏が行政区画とも重なり合うといった側面もあった。

研究成果の概要(英文)：This study make clear views on life and death, and under world view of northwest regions especially the Wu-Xi(河西) area in ancient China, especially from the 3rd till 5th centuries. Clue of elucidation is funeral relics and manuscripts excavated from many tombs of this area. Specifically, brick pictures, murals, bottle inscriptions for requiem, coffin inscriptions for requiem, lists of funeral goods and so on. We collect information and data of these relics and manuscripts, and construct databases.

Using them, we can elucidate that different thoughts of afterlife coexisted in the same area, and various expression methods of thought also coexisted. And we can point out ideological and religious background of thought was not single, and lack of systematicity.

研究分野：アジア史およびアフリカ史関連(中国史)

キーワード：出土史料 中国古代 死生観・冥界観 磚画・壁画 鎮墓瓶銘 随葬衣物疏 柩銘 墓券

1. 研究開始当初の背景

- (1) 中国の西北地方(ほぼ現在の甘肅, 青海両省と新疆ウイグル自治区一帯に相当)は乾燥地帯に属しているため, 各地に点在している墓からは, 多種多様な喪葬用の遺物や文書が腐朽せずに, 原状をとどめた形で出土している。したがってこれらの遺物や文書に対する考古学的・歴史学的な分析を通じて, 中国古代の死生観や冥界観の実相とその思想的・宗教的な背景を明らかにできるのではないかと考えた。これが発端である。
- (2) この地方が中国世界に編入されたのは紀元前2世紀以後だが, 紀元後になると, 内地から多くの移民がこの地方に進出するようになる。そこで, 本研究では, 主たる対象とする時代を3~5世紀, すなわち魏晉・五胡十六国時代に設定し, この地方のなかでもとくに「河西」と呼ばれる甘肅省西部の地域に焦点をあてることにした。中国西北地方のなかでも, この地域では考古学の発掘調査が活発に行なわれ, 多くの遺物や文書が出土しているためである。

2. 研究の目的

- (1) 同じ西北地方, さらには河西地域であっても, 喪葬用の遺物や文書から, 死生観や冥界観は多様であったこと, したがってその思想的・宗教的な背景も単一ではなく, また特定の思想・宗教の教理や教義から説明できるような体系的なものではなかったことを明らかにすること, これが第一の目的である。
- (2) (1)の解明には, 多種多様な喪葬用の遺物や文書それぞれについて, 情報やデータを収集し(一部は収集・公表済み), 整理する必要があるが, その結果をデータベース化して利用の便を図ることも目的である。

3. 研究の方法

- (1) 前項にも記したように, 3~5世紀の西北地方の墓から出土した喪葬用の遺物と文書に関する情報やデータを悉皆的に収集・整理し, 各遺物・文書ごとにデータベースを作成する。
- (2) その前提として, 遺物と文書の範囲を確定する必要があるが, 主な遺物としては, 鎮墓瓶(銘), 磚画・壁画があり, その他にも木板画・紙画・絹画・陶画, 柩銘などがある。また文書としては, 随葬衣物疏が代表的な存在だが, このほかに墓券, 墓誌, 名刺などがある。これらを対象とすることにした。
- (3) (2)のなかでも点数が最大であり, かつ情報やデータを収集・公表済みだった磚画・壁画を取り上げ, 河西地域におけるその年代, 分布, 図像のモチーフ, 墓内の位置などについて多角的に検討した。その際, 同じ図像史料である木板画以下の図像も合わせて取り上げた。この一連の作業を通じて, 死生観・冥界観の解明を目ざした。
- (4) 当初は随葬衣物疏についてもデータベース(史料集)を作成して公表する予定だったが, 予定していた海外(香港)での実見調査がコロナ禍のためにできなかったため, 断念せざるをえなかった。
- (5) 各年度の成果についても, 任意の研究組織である西北出土文献研究会で報告し, 批判を仰ぐ予定でいたが, これもコロナ禍のために開催できなくなったので, 実現を見なかった。

4. 研究成果

- (1) 磚画・壁画について, 公表済みだった関尾編『河西魏晉・五胡 墓出土図像資料(磚画・壁画)目録』(汲古書院, 2019年11月)に加え, 新たな情報・データを, 関尾編『河西魏晉・五胡 墓出土図像資料(磚画・壁画)目録補遺/河西魏晉・五胡 墓出土鎮墓瓶銘(鎮墓文)集成補遺』(Nakazato Labo, 2021年9月)として公表し, これも検討の対象とした。
- (2) 調査史と研究史をふまえ, 磚画・壁画について多角的な検討を行なった結果, 多くのことが明らかになったが, 本研究課題と関わる範囲で要約すると, 以下のようになる。

河西地域の中部(酒泉, 嘉峪関両市と高台县・当時の酒泉郡域)の墓では, 墓室の壁面に現世の生活(生産活動・消費活動・公的活動)の一齣を描いた磚画が嵌め込まれたり, 壁画が描かれたりしている。これは死後の世界を現世に擬えて考えた古代中国人の構想を具現したものである。墓室全体を現実の居宅に擬え, 死者の魄の住処として位置づけたと解釈した。

同地の墓でも, 墓室の壁面上部や天井などに神獣や西王母・東王公を描いたり, 死者を安置する棺の蓋(棺蓋)に伏羲女媧を描いたりする例があった。この部分は, 死者の魄の昇仙願望が表現されたものと解釈できる。と合わせて考えると, 魄は仙界に, 魄は地下にという分離志向が認められる。

河西地域の西部(敦煌市・当時の敦煌郡域)の墓では, 墓室の壁面に現世の生活をモチーフとした図像はほとんど描かれず, 墓主夫妻を描いた壁画や磚画が確認される。これは墓室が死者の魄の住処として位置づけられておらず, むしろ墓主夫妻に対する祭祀を執り行う空間として認識されていたと考えられる。

同地の墓では, 墓室よりも, 墓門上の門楼に各種の神獣や神仙を描いた磚画が配置されており, 死者の魄がこの場所で魄と分離し, 神獣や神仙に導かれて仙界に昇ることが含意されてい

たと解釈した。

鎮墓瓶銘についても、公表済みだった関尾編『河西魏晉・五胡 墓出土鎮墓瓶銘(鎮墓文)集成』(汲古書院, 2020年10月)に加え、先掲の『河西魏晉・五胡 墓出土図像資料(磚画・壁画)目録補遺/河西魏晉・五胡 墓出土鎮墓瓶銘(鎮墓文)集成補遺』や関尾編『2015年度敦煌仏爺廟湾 新店台墓群出土鎮墓瓶銘(鎮墓文)集成 附 2015年度敦煌仏爺廟湾 新店台墓群/2019年度張掖甘州区黒水国墓群出土鎮墓瓶一覽』(Nakazato Labo, 2022年2月)などで新たに出土した事例を整理して公表し、検討の対象とした。

後漢時代に、洛陽と長安、およびその近郊地域で普及した鎮墓瓶(銘)は、その後、河西地域にも普及したが、河西のなかでも敦煌郡域では鎮墓瓶の器形も銘文も独特で、その出土点数も突出しており、「後漢型鎮墓瓶」に対して「敦煌型鎮墓瓶」と呼ばれている。新たに出土した事例には、3世紀中頃という比較的早い時期のものも含まれており、河西地域にも伝えられた「後漢型鎮墓瓶」から「敦煌型鎮墓瓶」が生み出されていく過程を跡づけることが可能になった。その銘文は、死者の世界が、遺族が住まう現世とは画然と区別されることを主張しており、死後の世界を現世に擬えることのなかった敦煌の墓内の構造とも関わるものと考えられる。

磚画・壁画と鎮墓瓶銘のほか、柩銘についてもデータと情報を整理して公表した。河西地域からトゥルファン地域に至る広範囲に用いられていたことを確認した。

磚画・壁画や鎮墓瓶銘には、後代の道教信仰につながる要素が認められるが(とくに鎮墓瓶銘の「天帝」など)、柩銘は『儀禮』や『禮記』など経書に根拠を有しつつ、土俗的な信仰が加わっていき、さらに墓誌の内容に接近していったことを述べた。

河西地域をはじめ、西北地方では出土例が少ない墓誌や名刺についてはすでに収集・整理を済ませ公表済みである。またこの地方の墓券は出土例が少ないものの、様式や内容が特殊であるため、準備作業として中国内地で出土した同時代の墓券について事例を収集し、その様式と内容、およびその変遷過程について論じ、道教信仰がしだいに浸透する過程を明らかにした。

西北地方では出土例が確認されていない文字磚や壁画の題記についても、同時代の中国内地における出土例の一部を取り上げ、墓主との関連性について検討した。

本研究課題の周辺テーマになるが、磚画・壁画の生活図に頻繁に描かれる非漢族や、各種の労働における男女の性別分業についても合わせて検討した。非漢族については、ソグド人に代表される西方系非漢族と、チベット系の羌に代表される先住非漢族に大別できることを示した。また性別分業については、農耕や牧畜などの生産労働の主要な場面は男性が担い、女性もっぱら担うのは採桑や紡績・機織であったことを図像から読み取った。屠畜は男性の労働だが、鶏に限っては女性が担った。また家内労働は、屠畜の延長故か、畜肉の処理は男性、それ以外は食卓の準備に至るまで女性の担当であることが図像から読み取れた。これらの成果は全て公表済みである。

随葬衣物疏については、上述したような事情でデータベースを完成させることはできなかったが、紀年を有するものを中心にして、予定していたのとは異なった形式で、可及的速やかに公開するために準備中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 関尾史郎 |
| 2. 発表標題 從西北地方出土文物看 五胡十六国 的元号 研究史回顧 |
| 3. 学会等名 传承与创新：慶祝中国敦煌吐魯番学会成立四十周年学术研討会（国際学会） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 関尾史郎 |
| 2. 発表標題 吐魯番阿斯塔那，哈拉和卓兩墓群 五胡 壁画墓新探 |
| 3. 学会等名 第六届吐魯番学国際学术研討会（国際学会） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 関尾史郎 |
| 2. 発表標題 敦煌仏爺廟湾・祁家湾墓群之出現 讀王仲犛先生《《燉煌氾氏人物伝》考釈》 |
| 3. 学会等名 中国中古史研究高峰論壇——紀念王仲犛先生誕辰110周年国際学术研討会（国際学会） |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計8件

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 Nakazato Labo | 5. 総ページ数 314 |
| 3. 書名 三国志拾遺 続 文献と文物の間 | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 Nakazato Labo | 5. 総ページ数 189 |
| 3. 書名 三国志拾遺 補 東アジア・石刻ほか | |

| | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 東方書店 | 5. 総ページ数 320 |
| 3. 書名 周縁の三国志 非漢族にとっての三国時代 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 Nakazato Labo (https://note.com/nakazato211/n/nd954df227188) | 5. 総ページ数 36 |
| 3. 書名 河西魏晉・五胡 墓出土画像資料(磚画・壁画)目録補遺 / 河西魏晉・五胡 墓出土鎮墓瓶銘(鎮墓文)集成補遺 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 Nakazato Labo (https://note.com/nakazato211/n/n7173bbdbd5d) | 5. 総ページ数 90 |
| 3. 書名 2015年度敦煌仏爺廟湾 新店台墓群出土鎮墓瓶銘(鎮墓文)集成 附 2015年度敦煌仏爺廟湾一新店台墓群 / 2019年度張掖甘州黒水国墓群出土鎮墓瓶一覽 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 Nakazato Labo(https://note.com/nakazato211/n/nb161b4ca1502) | 5. 総ページ数 164 |
| 3. 書名 中里日帖 巻 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 Nakazato Labo(https://note.com/nakazato211/n/nbf33cab799fc) | 5. 総ページ数 216 |
| 3. 書名 中里日帖 弐 | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 関尾史郎 | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 汲古書院 | 5. 総ページ数 340 |
| 3. 書名 磚画墓・壁画墓と河西地域社会 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| 関尾史郎のブログ https://sekio516.exblog.jp/ Nakazato Labo https://note.com/nakazato211/ |
|---|

6. 研究組織

| | | | |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|